

第48回 歴史&ハイキング愛好会例会 実施報告書

「本所防災館」体験ツアー

当番世話人 小口 健一郎

令和7年4月21日、参加者11名がJR錦糸町駅に集合。
陽春の中、徒歩700mにある東京消防庁本所防災館に向かいました。



・JR 錦糸町駅から本所防災館向かう



先ず、インストラクターの説明と指導による体験を通じて災害の怖さや備えを学習しました。

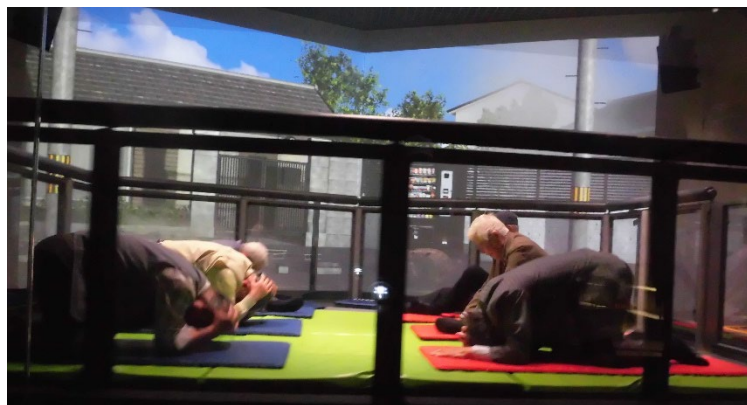


最初に、防災シアターにて関東大震災の映像を視聴、マグニチュード 7.9 の大地震に生き残った主婦の記録を再現したもので、巨大地震の恐ろしさや備えの必要性を痛感しました。

次に暴風雨体験では、風速 30メートル雨量 1時間 50ミリの体験、何かにしがみついていると飛ばされる。雨は足元から容赦なく吹き上がってくる。この風速と雨量で、この状況でするので、更にこれ以上であれば大変な災害を引き起こすであろうことは容易に想像できました。



・ 暴風雨体験



・ 地震体験

次の地震体験は、実際の東日本大震災や阪神淡路大震災、能登半島沖大地震の揺れを体験、3つとも揺れ方が違っており、いずれも震度 7 では立ってはいられないことが分かりました。

3番目の体験は水圧です。外に水が溜まって中から扉を開けるのに深さ 10センチの水量で渾身の力で何とか開きましたが、20cmでは全く開かない。また、アンダーパスでは車のドアを開けるのに、ドアに 10センチの水がかかっているだけでも片手では開かないことを体験しました。



・ 都市型水害体験



最後の煙体験では暗闇の中、体を折りながらの脱出は方向が分からず大変苦勞しました。特に初めての場所に行った時にはまず非常口を確認しておくことの大切さを知りました。



・煙体験

10時30分スタートし2時間15分があっという間に過ぎました。実際に体験して、今までの考えが甘かったことを痛感した、何とかなると軽く考えていた、この年齢になっても知らないことが沢山あった、との感想や、近所の方との共助（お互いに協力し合って消火、救出、応急救護）の必要性を強く感じた、との所感がありました。



参加者（敬称略）

木頃勝紀、山田昌之、白岩仙一、牧田賢二、田代 周、岩崎正憲、小口健一郎、川股賢三、櫻井 實、住田勝治、六角学、

帰りは錦糸町近くの食事処でビールを飲みながら懇談し、解散しました。

皆様お疲れ様でした。

以上